

ハトダヨにしか
載っていない!

ぜひ読んでみてください!

スタッフのおすすめ本

棚：湯川図書室
請求記号：498.3 ㊦

タイトル：「絶対に死ぬ私たちが これだけは知っておきたい健康の話」

著者：若林 理砂 出版社：ミシマ社（2018年8月）

著者の若林さんは鍼灸師。

東洋医学を基にしたココロとカラダのお話です。具体的には、「寝る・食う・動く」といった生活そのものの乱れを正し、様々な健康法を試す前に、まずは土台を整えよう！という現代版・養生といった内容です。“絶対に死ぬ私たち”なんて少々乱暴なタイトルも著者の考える「健康」を説明する上では大事なキーワードと言えます。

健康のことが気になり始めたら、土台作りからスタートしてみてもいいかもしれません。

棚：J14~J15
請求記号：596 コ

タイトル：「理系の料理」

著者：五藤 隆介 出版社：秀和システム（2015年9月）

タイトルに「料理」とありますが、普通のレシピ本ではありません。

理系脳、かつ料理初心者の著者が、牛丼製作の手順書をもとに、料理を理解し、攻略していく過程が書かれています。

行程表の中で、まな板の上に置いた定規に沿って1cm（適量）分のチューブ生姜を絞り出すなど、料理が得意な人には笑えます。レシピ通りに作ったのに上手くできない人や、これから料理を始めようという人は、一度読んでみてはいかがでしょうか。

棚：B1~B5
請求記号：Y457.87 マ

タイトル：「漫画むかわ竜発掘記」

企画・原案：土屋 健 出版社：誠文堂新光社（2019年6月）

日本初の全身骨格化石「むかわ竜」。北海道に住む方ならば7200万年という時間を越えたこの奇跡の大発見に、胸をわくわくさせている方も多いのではないのでしょうか。

この本は漫画で読みやすく、発見からのドラマを紹介しています。はじめは硬い岩に包まれたたった1つの化石でした。そこへまるで運命のような出会いが重なり、やがてみんなの思いをのせてむかわ竜は町の希望となっていきます。ページをめくれば人々の熱意や努力が伝わって、胸がドキドキするような一冊でした。

今年はむかわ竜をモデルにした絵本「いまぼくはここにいる」なども出版されています。合わせておすすめです。

ハトダヨにしか
載っていない!

ぜひ読んでみてください!

スタッフのおすすめ本

タイトル: **「絵本屋の日曜日」**

棚: A4~A6
請求記号: 019.53 杆

著者: 落合 恵子 出版社: 岩波書店 (2006年4月)

著者あとがきに「絵本処方箋ともいえるエッセイ」という言葉がありました。

この本はその表現通りでした。「心がひりひりしたら」や「最近笑っていないと気づいたら」など、それぞれのテーマに沿った絵本が軽快なエピソードと共に紹介されています。子どもの頃の思い出や、著者の人柄がにじみ出る日常のほんわかとするエピソードを読むだけでも充分楽しめます。しかし紹介されている絵本も読みたくなってしまいますので、二度楽しめます。読み終わったら気持ちが少し柔らかくなるような、そんな一冊です。

タイトル: **「整理・整頓が
人生を変える」**

棚: A4~A6
請求記号: 002.7 杆

著者: 小野 裕子 出版社: 法研 (2018年4月)

長年、日本全国の企業・団体・学校・病院・地方自治体など、様々な業種業態のファイリング（整理・整頓）指導をマネジメントしてきた著者が、個人向けに人生設計や終活等に役立てられるように、ライフステージに合わせてアレンジをして、まとめられた本です。

必要な書類を分類して、いつでも簡単に取り出せる整理方法が、さまざまな生活シーンで活用できます。年末の大掃除に向けてファイリング術を取り入れてみませんか？

タイトル: **「ぼくのたび」**

棚: J7~J10
請求記号: Eミヤ

作: みやこし あきこ 出版社: ブロンズ新社 (2018年11月)

いつも頭の中で思い浮かべる憧れの風景…皆さんはありますか？

とある街の小さなホテルを運営する「ぼく」。世界各国から訪れるお客さんのお世話をするのが彼の日課であり、誇りです。けれど、いつかここではないどこかへと旅に出てみたいという思いも秘めていて…。

「遠くへ行きたい」「旅に出てリラックスしてみたい」と思っている方、どうぞこの絵本を手にとってみてください。きっと主人公に共感できるはずです。

ハトダヨにしか
載っていない!

ぜひ読んでみてください!

スタッフのおすすめ本

タイトル: 「翻訳できない 世界のことば」

棚: A22~A24
請求記号: 804 サ

著者: エラ・フランシス・サンダース 出版社: 創元社 (2016年4月)

イタリア語で、“涙ぐむような物語にふれたとき、感動して胸が熱くなること”を「コンムオーベレ」と言うそうです。ウルドゥー語で「ゴーヤー」とは“素晴らしい話を聞いてその物語の中に自分がいるような気持ちになること”だそう。この本は、そんなその国では当たり前のように使われているけれども、他の言語に訳すときに一言では言い表せないような“翻訳できない言葉”を、著者の感性豊かな文章と可愛らしいイラストでまとめた本です。

こんな言葉があるんだなと笑えるものもあれば、その言葉の背景を深く考えてしまうものもあり、1ページ1ページじっくりと味わいたくなる一冊です。

タイトル: 「よるくま クリスマスのまえのよる」

棚: J3~J6
請求記号: E ヅ

著者: 酒井 駒子 出版社: 白泉社 (2000年10月)

「わるいこにはサンタさん来ないかもしれないよ。」

クリスマスが近づくとつい子供に言ってしまうセリフです。この絵本の主人公「ぼく」もママにたくさん叱られたからサンタさんがこないかもしれないと心配して眠れない男の子。そんな時よるくまが遊びにきて男の子と触れ合う物語です。ラストでは親子の愛情に切なくなります。クリスマスの温かくて幸せな雰囲気を感じられる絵本です。

タイトル: 「ないもの、あります」

棚: 閉架 2
請求記号: 914.6 ク

著: クラフト・エヴィング商会 出版社: 筑摩書房 (2001.12)

「堪忍袋の緒」、「左うちわ」、「舌鼓」・・・よく耳にするけど一度も見たことがないものを、古今東西から取り寄せてくれる商会の風刺のきいた商品カタログ風の本です。商品のイラスト付きなので、イメージがわきやすく、まるで本当にあるかのような錯覚に陥るかも?

クラフト・エヴィング商会とは、作家である吉田篤弘さんと吉田浩美さんによる制作ユニットで、テキストとイメージを組み合わせた、独創的な作品を発表しています。皆さんもぜひ、お目当ての商品を見つけてください。ただし、取り扱いには要注意!